1 内政

ポンペイ在住の米国人、先のヤップでの米国人殺害事件について意見交換を実施
7日、ライリー駐FSM米大使が出席の下、ポンペイ在住の米国人が先のヤップ州における米国人州司法大臣代行の殺害事件に関し、事件の影響やFSMにおける安全等に関する意見交換を行った。参加者の中には、もっと大使館が事件に関する十分な情報を伝えてくれれば、もっと安心できたと思う等の意見が出された。
(11月7日付、カセレリエ紙)

ポンペイ州選挙の結果が発表。2選挙区で抗議、一つの選挙区で再集計の要請
12日、先月実施されたポンペイ州知事、副知事、州議会議員、地方自治体選挙の結果が発表され、次期州知事にはリード・オリバー現副知事が、また、副知事にはフェリシアノ・パーマン現州政府職員がそれぞれ当選した。なお、市民からの抗議に基づき、ウー地区の2つの地方自治体選挙の再集計が決定された。
(11月12日付、カセレリエ紙)

子供の権利条約30周年を記念し太平洋諸国の子供達が世界こどもの日に参加
子供の権利条約が採択されてから30年が経過し、世界中で30周年記念が祝福された。太平洋諸国では、FSM、フィジー、キリバス、ナウル、サモア、トンガ、ソロモン、バヌアツで世界こどもの日に記念イベントが開催された。FSMでは、ユニセフとミクロネシア短期大学（COM）と協力の下開催された青年会議で、青少年によるデジタルテクノロジーを活用した「U-Report Programme」が開始した。子供の権利に関する現状は以下の通り。

（改善）

- ・ 5歳未満の死亡率が60%低下し、最高値はキリバスで50%減少した
- ・ 1990年と比べ26億人がきれいな飲料水にアクセスしている
- ・ 子供の権利条約は地域内の多くの憲法、法律、政策、観光に影響を与えている

（課題）

- ・ 5歳未満の貧しい子供は裕福な家庭に比べておよそ2倍、予防可能な原因で死亡している。
- ・ 子供は物理的、生理学的、疫学的に気候危機の影響を受けるリスクが高い。

（カセレリエ紙）

太平洋諸国ではしかが流行

11月15日、サモア政府ははしかの流行に関する緊急事態を宣言した。1,000人以上の感染、子供14人、大人1名の死亡が確認された。ユニセフは、110,500本のワクチン、30,000個のビタミンA錠剤を提供した。ユニセフは、トンガ、フィジー、ニウエ、バヌアツ、ソロモン、キリバス、クック、マーシャル、ミクロネシアに対してはしかの予防接種を行った。

(11月19日付、カセレリエ紙)

憲法評議会選挙の当選者が決定される

12日、パニュエロ大統領は、5日に実施された憲法評議会 (Constitutional Convention) 評議員選挙で当選した14名の宣誓式を行った。憲法評議会は憲法改正を審議し、連邦議会に勧告する役割を持ち、前回は2001年に実施された。

(11月12日付、カセレリエ紙)

2 外交

パニュエロ大統領、中国が実施した経済協力案件を視察

6日、パニュエロ大統領は黄中国大使の案内で、2020年に完成予定のポンペイ州セカンダリー道路建設現場を含む、中国政府による経済協力プロジェクトを視察した。これまでいくつかの案件がポンペイ州政府の政策等によって頓挫している点につきパニュエロ大統領は、ポンペイ州知事と話し合っって計画が推進できるように取り計らいたいと述べた。パニュエロ大統領はその他マドレニウム地区の農業試験場も視察した。パニュエロ大統領はこの試験農場の成功を他州にも展開させ、生活習慣病の改善に役立てたいと述べた。

(11月6日付、カセレリエ紙)

パニュエロ大統領、佐藤APIC理事長と今後の力について協議、FSMと日本の絆

11日、日本を訪問中のパニュエロ大統領は佐藤APIC理事長(元駐中国日本大使)主催の歓迎会に出席し、APICとザビエル高校、MCT、上智大学による人的交流の強化等につき話し合った。詳細は往電第803号を参照。

(11月11日付、カセレリエ紙)

ポンペイ在住比人会の選挙が実施

17日、ポンペイ在住の比人からなる The United Filipino Community の役員選挙がコロニア小学校で実施された。

(11月17日付、カセレリエ紙)

パニュエロ大統領, Waqa 前ナウル大統領と面談

20日, パニュエロ大統領はポンペイを訪問した Waqa 前ナウル大統領と面談した。
(11月20日付, カセレリエ紙)

新しい駐FSM日本大使の着任レセプションが開催される

21日, 新しい駐FSM日本大使の側嶋秀展大使及び同夫人の着任レセプションが100人を超える出席者の下, 大使公邸で開催された。また, レセプションではカシオ・ミダ前駐日大使への叙勲について紹介された。挨拶ににおいて側嶋大使は引き続き日本とFSMの協力関係を強化していきたいと述べた。側嶋大使は夫人と脇料理人と共に10月7日にポンペイに着任した。
(11月21日付, カセレリエ紙)

コスラエで2019年退役軍人日レセプションが開催される

11日, コスラエ州で2019年退役軍人日レセプションが開催され, ヘザー・コーブル米大次席が出席した。レセプションではコスラエ州退役軍人会会長が挨拶した他, 今般9人のミクロネシア人が, 米陸軍への入隊宣誓を行った。
(11月11日付, カセレリエ紙)

3 経 済

FSM 最高裁判所は, 7名による申請に基づいて, ナマコの捕獲停止に関する一時的差止め命令を発効

19日, アンソン裁判官は, 18歳未満の7名の若者を代表してジャック弁護士が民事訴訟を起こした, ポンペイ州におけるナマコの捕獲停止に関する一時的差止め命令 (TRO) を発効した。子供の権利条約は青少年が訴訟を起こす権利を認めており, FSM では本件が初めてのケースである。マドレニウム地区では TRO が発行される前に出された 111 の許可に基づきナマコの捕獲が開始されていた。TRO は, ナマコの捕獲を禁止しているが, 本命令が発行される前に捕獲されたナマコを企業が所持することを許可している。

(11月22日付, カセレリエ紙)

4 経済協力

FSM は, J-PRISM フェーズ 2 を通して廃棄物処理問題と向き合う

9月26日, 環境・気候変動・危機管理省と JICA は, 大洋州地域「廃棄物管理改善支援プロジェクト」に関する第三回合同調整会議をポンペイ州アイランド・パームホテルにて開催した。同会議の目的は, 参加者が各州の J-PRISM フェーズ

2の進捗を報告し、廃棄物管理改善に係るニーズを共有することであった。
(11月29日付, カセレリエ紙)

FSMはサモアの人々及び政府に対し、緊急事態へのお見舞いを送る
パニュエロ大統領とシミナ連邦議会議長が会談後、FSM政府はサモアのはしか流行に対して10万ドルの人道支援を許可する法案を可決した。
(11月30日付, カセレリエ紙)

米国海軍 NMCB-5's とペレン小学校の生徒が開会式に参加
7日、ポンペイ州キチ地区の住民と学校は、ペレン小学校校舎の改修に協力する米国シービーズ(米海軍建設工兵隊)を歓迎した。ライリー米国大使は小学校を訪問し、FSMと米国との関係強化に貢献しているシービーズの活動を称賛した。2つのトイレと本校舎を含む3つの建物が改修される予定。
(11月7日付, カセレリエ紙)

海洋投資計画が開始
20日、FSM政府及び州政府は、世界銀行と協力の下、FSM海洋投資計画を正式に開始した。この計画の主な目的は、国際的な安全の基準を満たすため港を改修することである。同計画は総額38.5百万ドル相当の計画であり、2020年の下半期を目処に着工される。
(11月20日付, カセレリエ紙)

2020年会計年度の助成金が有効になる
米内務省のドメネク内務次官補は、2020年度予算において、3つのプログラム(技術支援、メンテナンス支援、珊瑚礁及び海洋資源保護)からなる助成金プログラムが開始される旨公表した。
(カセレリエ紙)

5 文化・教育

2019年青年会議がFSM/COM体育館で開催される
19日から1週間、ポンペイのミクロネシア短期大学(COM)体育館において、気候変動・持続的開発のテーマで、2019年青年会議が開催された。会議にはパニュエロ大統領も出席した。
(11月19日付, カセレリエ紙)

IOMによる映画祭が開催

29日から12月4日までの予定でIOMによる映画祭り(GMFF)がポンペイ・シネマで開催される。映画の力を通じて国際的な移民について啓発するものである。映画はFSMを含む世界101カ国で実施される。

(11月30日付, カセレリエ紙)

身障者によるタレントショーが開催される

30日, ポンペイ州コロニア市のFSM中国友好体育館において, 数名の身障者によるタレントショーが開催された。これは12月3日に予定される国際身体障害者デーの準備的な催しである。今回の国際身障者デーのテーマは「未来はアクセシブル」。

(11月30日付, カセレリエ紙)

ポンペイ・シネマで中国映画祭が開催

当地中国大使館による中国映画祭がポンペイ・シネマで開催された。3種類の英語字幕付きの中国映画が数日間無料で上映され, 30日に行われた開会式では, ポップコーンとソフトドリンクが無料で提供された。往電第820号を参照。

(カセレリエ紙)